

文化振興拠点について（まとめ）

文化振興拠点部会は、多様な文化振興拠点が果たすべき文化資源の保存・活用、文化の創造・交流の拠点としての役割、連携等について検討を行い、文化審議会における「三重の文化振興方針（仮称）」の検討を支援するために設置されました。

8月23日から10月29日まで4回の部会を開催して検討してきたことを、以下のとおり報告します。

文化振興拠点部会

1 はじめに

文化振興拠点とは何か、ということについて、明確に定義されているわけではありません。本部会では、図書館や博物館、公民館などの文化施設や社会教育施設等を三重の文化振興を進めるための拠点（＝文化振興拠点）とし、今後重点的に強化すべき対象として様々な視点から検討を行いました。

2 県民にとっての文化振興拠点

文化振興拠点は、県民にとって、あるときは、文化に触れ、互いに交流しあう楽しい時を過ごす場として、またあるときは、先人のことを知り、過去へ思いを馳せる場として、そしてまたあるときは、様々なことを調べ、課題の解決を助けてもらえる場となります。

文化振興拠点は、誰にでも開かれた、一人ひとりの成長と自己実現や地域を支援する場として重要です。

県民は、文化振興拠点において、学び、活動するなかで、新たな気づき、知識・知恵を得て、より専門性の高い人材、主体性をもって取り組む人材として、拠点の新しい持続的な発展を導きます。

また、地域の文化を記録、研究し、次世代へ発展、継承していくための活動の舞台としても、文化振興拠点は重要な役割を果たします。

とりわけ、図書館、博物館、美術館は、収蔵資料の閲覧機能や展示、調査研究機能などをもつことから、文化の保存、継承、発展に寄与し、県民の文化の接点、知的探求の場となる「文化と知的探求の拠点」として大変重要な役割を果たすと考えられます。

文化の全般的な振興の視点からは、これらの施設に、文化会館、生涯学習センターが加わって、総合的に「文化と知的探求の拠点」としての機能

と役割を果たせるようにすることが、県民と地域の文化の発展にとって効果的であると考えられます。このような視点からは、設置が課題となっている公文書館の役割や機能について検討していくことも必要です。

3 文化振興拠点を充実させる意味

文化振興拠点部会では、「拠点」の意味について、かなりの時間を使って検討を行いました。

その結果、共通の理解となったことは、拠点には、「人」、「資金」、「場所」の要素があり、施設（建物）＝拠点ではない、ということです。

施設を拠点として機能させるのは、「人」であり、ソフト面の充実が重要なポイントになります。このソフト面の充実により、建設にかけた金銭コストが、何倍もの価値となり、継続して、価値がもたらされるということになります。

本部会においては、この点について確認し、三重の文化振興においては、文化施設を人と文化を育てるソフトパワーを備えた拠点として強化していくことが必要であるとして、重点的に取り組む今後の展開方向について検討を行いました。

4 文化振興拠点の機能

文化振興拠点は、誰にでも広く開かれた場であり、概ね次のような機能をもっています。

①一人ひとりの生涯学習を支援する機能（学習支援）

※ 本人の学習ニーズに対する支援だけでなく、未来に向けて社会の一員として必要な学習内容を提供する。

②一人ひとりや団体の文化活動を支援する機能（活動支援）

③多様な文化情報を紹介し、ひろめる機能（情報提供）

④利用者などに、いかに文化に触れ親しみ、文化活動に参加してもらうかについての企画立案機能（企画立案）

⑤文化活動や人をつなげる機能（コーディネート）

⑥よりレベルの高い拠点活動を行うための機能（調査・研究）

⑦専門性をもった人材を育成する機能（人材育成）

これらの機能は、すべてを均等に備えるということではなく、拠点の目的、特徴等によって優先すべき機能があると考えられます。

5 文化振興拠点を機能させるために

文化振興拠点を人と文化を育てる拠点として機能させるためには、まずは、利用者である県民が施設を使いこなす熱意と姿勢が必要です。

このような施設を使いこなそうとする県民を支援し、施設を機能させるための人材が必要になります。県民は、利用者であり、また、拠点や他の県民の活動を支援する人材として成長していきます。

また、拠点として機能させるための基本として、運営資金やしっかりとした運営体制、行政、関係団体・NPO、企業などの支援が必要です。

施設を機能させるためには、多様な人材が必要になります。

○必要となる人材例

- ①施設を機能させる上で必要な専門知識をもった人材（学芸員、司書など）
- ②コーディネーター（活動や人をつなげる人材）
- ③インタープリター（解説や案内を行うことで施設利用を助ける人材）
- ④管理・運営する人
- ⑤ボランティアなどの支援者 など

また、各拠点のもつ特徴を生かした機能連携を推進することで、より文化振興拠点が機能を働かせることができます。

6 文化振興拠点の性格に基づく役割分担の考え方

文化振興拠点には、「県民にとって身近な拠点としての性格が強いもの」と、「専門性が高く、文化との接点、知的探求を支援する拠点としての性格が強いもの」があります。

公民館や地域の交流施設、あるいは、高齢者センターや児童館など特定の対象のための施設などが、身近な拠点としての役割が期待されます。（「身近な拠点」と呼びます。）身近な拠点は、誰にでも文化に接する権利を保障していくためのアクセスポイントとしての役割が重要です。

また、図書館、博物館、美術館、文化会館などは、専門性が高く、モノや情報という形で知が集積し、文化との接点であり、知的探求の拠点としての役割が期待されます。（「文化と知的探求の拠点」と呼びます。）

文化振興のためには、この身近な拠点と文化と知的探求の拠点の役割分担を基本にしつつ、個々の拠点がうまく連携しあい、県民の役に立てるような取組や体制づくりが必要になります。

①身近な拠点に求められること

身近な拠点は、地域の住民が気軽に立ち寄り、個人やグループで、学習活動や文化活動を行ったり、鑑賞したりできる場であることが求められます。あわせて、新たな住民のニーズに直接応えられない場合に、他の拠点を案内し、つなげていくことが求められています。

②文化と知的探求の拠点に求められること

文化と知的探求の拠点は、当該施設の特徴に応じて、拠点機能を強化し、より高い県民ニーズに応えていくことが求められています。

7 文化振興拠点の機能強化に向けた展開方向

(1) 身近な「場」を拓き、つなぐ

※身近な拠点を充実させるための方向及び拠点間（特に広域の拠点間）の連携の方向について、記述します。

①身近な拠点の充実にとって必要なこと

②拠点間の連携（身近な拠点が県民の必要とする支援に応えられるために）

(2) 県の「文化と知的探求の拠点」づくり

※「文化と知的探求の拠点」の機能強化のために、以下の2つの視点から記述します

①県が設置する図書館、博物館、美術館、文化会館、生涯学習センターの充実強化

※個々の拠点の特徴、強み、役割などをもとに、学校や他の機関とも連携した充実強化の方向について記述します。

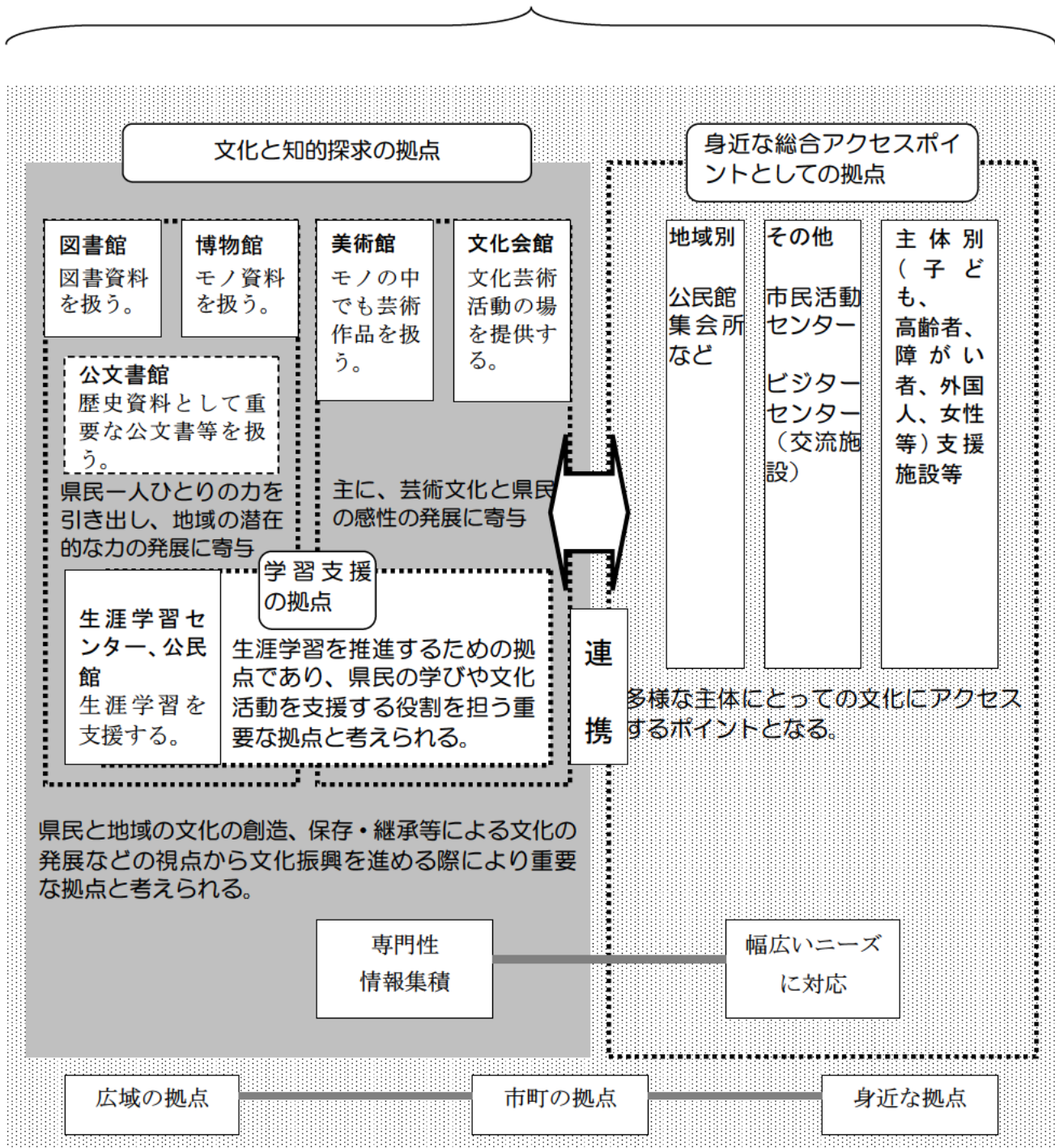
②①の拠点が「文化と知的探求の拠点」として、全体最適を考えた拠点づくり

※拠点間の連携による全体に最適な拠点づくりの方向を記述します。

8 県全体の文化振興を進める仕組み、体制

※行政（特に県）のやるべきこと、民間による取組、多様な主体による仕組みや体制整備の考え方や取組方向などについて記述します。

☆「文化振興拠点」間の役割連携のイメージ
総合的に文化振興に寄与



☆ 設置者や立地等の別からみた期待される役割

区 分	特に期待される役割等	視点	
		① 近接性	② 専門性
広域の拠点	市町を越えた広域又は県域をカバーする、さらに他県をリードできるような拠点として、位置づけられます。そして、市町や身近な拠点の補完的な役割と個々の取組が難しい専門人材の育成、専門性の高いシンクタンク、連携拠点としての役割などが期待されています。 例：県全体の図書館(又は博物館等)機能の向上	△	◎
市町の拠点	広域の拠点に準じたシンクタンク、連携拠点としての役割を期待されることがあり、また、市町にひとつしかない場合など、個々の住民へのサービス提供の拠点としての役割も期待されます。 例：住民一人ひとりの活動を支援するとともに、市内の図書館機能の向上	○	○
身近な拠点 (地域別、主体別)	地域や主体別の身近な拠点は、住民一人ひとりにもっと身近な学びと文化活動の場としての役割を期待されます。また、誰もが文化や情報にアクセスし、適切な支援をしてもらうことができる最も身近なアクセスポイントとしての役割があります。 例：住民一人ひとりの図書への身近なアクセスポイントとなり、必要に応じ市町や広域の拠点へ案内することが求められます。	◎	△

視点①近接性：県民からみたアクセスのしやすさ

②専門性：個々の施設で取り組むことが難しい（効果が上がらない）より専門性の高いシンクタンク機能（知識、情報の集積）や人材育成機能

※ 上記表では、視点①、②について、より期待が大きい役割を、大きい順に◎、○、△で表しています。

☆ 県が設置する「図書館」、「博物館」、「美術館」、「文化会館」、「生涯学習センター」に求められる機能等について

図書館

特徴：図書、記録資料を扱う。

業務：一人ひとりのニーズに応じて、知識、知恵などの情報を的確に提供する。

役割：県民一人ひとりの自主的な活動と自己実現を支援する。
地域の多様な知的活動、産業活動等を高め、支援する。

機能：・情報検索（レファレンス）による情報収集、成果活用支援
・図書貸し出し、講座等提供による学習支援、調査・研究
・講演会等交流支援

図書館とは

図書資料を通じ、人類の英知、国内外の知識情報に触れることで、一人ひとりの考える力、創造性を育む、地域の知的生産、創造の拠点

博物館

特徴：歴史、民俗、産業、自然科学等に関するモノ資料を扱う。

業務：資料を収集・保存・継承し、展示等により、資料の活用と情報を発信する。

役割：県民一人ひとりの自主的な活動と自己実現を支援する。

地域の過去、現在をあらわし、地域づくりや課題解決を支援するとともに、未来にむけた地域アイデンティティの明確化・発信につなげる。

機能：資料の収集・保存・活用、展示、情報提供・発信、普及・教育、調査・研究

博物館とは

地域の歴史、自然、文化に関するモノ資料を通じ、過去、現在の自然、暮らしや文化を知ること、自分や地域の今を振り返り、未来に向けて考察する拠点

県民一人ひとりの力を引き出し、地域の潜在的な力の発展に寄与

美術館

特徴：モノの中でも芸術資料を扱う。

業務：資料を収集・保存・継承し、展示等により、芸術資料の活用と情報を発信する。

役割：県民一人ひとりの自主的な活動と自己実現を支援する。
優れた芸術作品の鑑賞機会を提供し、県民の文化芸術に関する素養を高めるための支援を行う。

機能：資料の収集・保存、展示・活用
情報提供・発信、普及・教育
調査・研究

美術館とは

作品を通して、作者の生き方や考え方、世界や地域の自然、暮らし、文化に触れることで、自分や地域を振り返り、一人ひとりの芸術性と感性を育む拠点

文化会館

特徴：文化芸術活動の交流（鑑賞、発表）の場

業務：優れた音楽、舞台芸術等の鑑賞機会を提供するとともに、県民に発表の場を提供する。

役割：県民一人ひとりの自主的な活動と自己実現を支援する。

優れた文化芸術作品の鑑賞機会を提供し、県民の文化芸術に関する素養を高めるための支援を行う。

機能：場の提供、情報提供・発信、普及・教育、調査・研究

文化会館とは

さまざまな音楽、舞台芸術などを通して、作者の生き方や考え方、世界や地域の自然、暮らし、文化に触れるとともに、自らが活動の主体となって自己表現を支援することで、地域全体の芸術性と感性を育む拠点

主に、芸術文化の継承・創造・発展と県民の感性の醸成に寄与

生涯学習センター

特徴：生涯学習の拠点として、生涯学習を進める上での様々な情報をデータベースとしてもつ。

業務：一人ひとりのニーズを把握しつつ、生涯学習に関する各種情報を的確に提供するとともに、生涯学習に関する多様な学習等の機会を開発し、提供する。

役割：県民一人ひとりの自主的な学習活動と自己実現を支援する。

各種情報収集・整理・提供、調査・研究にもとづく県内の市町や生涯学習施設への支援を行う。

機能：生涯学習に関する各種情報を収集・整理し県民に提供、レファレンスサービス、調査・研究、学習・研修機会の提供、場の提供



生涯学習センターとは

県民一人ひとりの学習ニーズを把握しつつ、さまざまな学習支援、機会の提供を行うとともに、県内の市町や生涯学習拠点の支援を行う生涯学習を推進する拠点

生涯学習を推進するための拠点であり、県民の学びや文化活動を支援する役割を担う重要な拠点と考えられる。

公文書館

特徴：歴史資料として重要な公文書等文献資料を扱う。

業務：歴史資料として重要な公文書等を保存し、閲覧等の利用に供する。

役割：歴史資料として重要な公文書等の保存と活用

機能：・資料の保存・収集

・閲覧機能を持ち、情報検索（レファレンス）による情報収集、成果活用支援

・資料に関する調査・研究と成果の還元（展示、講演会の開催など）



公文書館とは

歴史資料として重要な公文書等を保存するとともに、県民等の求めに応じて、閲覧を行うとともに、資料に関する調査研究を行い、その成果について提供する拠点

県民の文化と知的探求を支援する拠点